

第2回国司館と家康御殿整備活用検討懇談会会議録(要旨)

■開催日時 平成24年2月22日(水)午後1時55分～3時23分

■開催場所 ふるさと府中歴史館3階会議室

■出席委員 9名(順不動・敬称略)

北島和一委員、松本三喜夫委員、臼井正委員、島田勇委員、石川三郎委員、
岡野光男委員、井原茂幸委員、加藤孝子委員、宗形清英委員

■出席説明員等

英ふるさと文化財課長、江口ふるさと文化財課長補佐、石井管理係職員
(オブザーバー)都市整備部計画課 伊橋土地利用担当主査

■議事日程

開会

- 1 座長挨拶
- 2 意見交換
- 3 その他

閉会

■進行概要

開会

全委員が揃ったため、5分前に開会した。

座長挨拶

北島座長から挨拶。今回の懇談会協議に向けて、事前に委員の方々から具体的な提案や意見を頂戴することが出来たことへの謝辞。これらの意見を基に提言としてまとめたいので十分にご協議いただきたいと挨拶があった。

意見交換

議題「国史跡武蔵国府跡御殿地地区の保存、整備及び活用について」の意見交換が行われ、これまでに提出された意見を基に、懇談会提言書(案)として事務局がまとめることとなった。

今後の流れは、本懇談会の提言は、来年度設置予定の専門家を交えた協議会に報告する。来年度は、具体的な基本計画の策定を予定し、その後は、国・都・市の財政状況を踏まえたうえで基本設計、実施設計を経て整備することになるため、数年が予定される。

その他

なし

閉会

■会議録(要旨)

○座長 ただ今から、第2回国司館と家康御殿整備活用検討懇談会を開催します。本日の出席状況等を事務局から報告願います。

○事務局 本日の出席状況は、委員全員の方に出席いただき有効に成立している。また、本日の傍聴希望者はなかったことを報告した。

○座長 資料説明を事務局から願います。

○事務局 資料1は、第1回会議での協議を基に、保存、活用、連携、その他の4区分に分けて、今回事前に委員の方々から頂いた意見をまとめたものである。

既にご覧いただいていると思いますが、この4区分の項目にとらわれることなく、後ほどご協議を頂戴したい。

資料2は、あくまで一般的な提言書をまとめる際の骨子案なので、これにとらわれることなく、自由に協議していただきたい。

参考資料のJR東日本の本「武蔵野線まると探検」の府中本町駅の写しは、鉄道マニアや市外の方から知られている府中本町駅近郊については、早くから都市計画に基づく街づくりが行われた風格のある街並みと紹介されているものです。

なお、第1回会議の冒頭説明と重なるが、今後の保存整備活用計画の策定については、本年度本懇談会の提言を、これから3月議会での来年度予算審議となるところであるが、平成24年度に設置予定の専門家を交えた御殿地地区の保存整備活用基本計画策定協議会に報告して具体的な計画の策定を進めていく予定である。その後は、国・東京都・府中市の財政状況も踏まえながらとなるが、早期に事業に着手できればと考えている。

○座長 第1回会議に続き、本日は、きたんのないご協議をお願いしたい。

○委員 最初に、ポイントになる点の論点を決めて議論し、それぞれまとまるところはまとめ、まとまらないところはそれでいいのではないかと思う。

○委員 この席は、一本にまとめる形をとるのか。いろいろ見解の違いもあるので、仮に方向性を一本にまとめるのが難しければ議論を併記する形もあり、どういうまとめ方をしていくかで議論の仕方も違ってくると思う。

○座長 懇談会としての全体意見として方向性を一本にまとめるのは大変難しい。したがって、各委員の意見を全部集約してこういう意見があるという報告をする形となるのではないか。懇談会としての全体意見としてこういう方向に決定したからこういう方向をもとめたいというのは、非常にむずかしいのでは。

○委員 方向性を一本にまとめるのは難しい。各委員が発言した意見を集約して報告する。

○委員 論点を絞っての議論は良いが、全委員からの意見を既に資料で分類しているところの、保存・活用・連携の区分で協議した方が理解しやすいと思う。

○委員 方向性を一本にまとめたいとは思いますが、各委員は自分も含め、あることないこと思いついた意見は全部言っていると思うので、時間の関係もあり、方向性を一本にまとめるところまでは行けないのではないかと思います。

○委員 近辺の方は、駅前なので出来れば商業施設的なものを望んでいる。大原則論は歴史であるが片寄りが懸念される。市が土地を購入し、観光と歴史で自由に使える方法が理想的であるが、振り出しに戻ることは可能なのかどうか。

○座長 地域の活性化だと思うが、重要な国の史跡として価値を認められているので全く無視することは困難である。重要なのは、活用し、多くの人に集まって頂くのにはどうしたらよいかである。国衙の跡は、土地を買い上げ整備をしたのに、PR 不足か市民の関心がきわめて薄いのか現実には利用されていない。御殿山の跡が同じような状況になっては残念である。歴史的にも重要な場所であることを認識してもらう必要がある。府中本町駅は、鉄道マニアにも人気があり市外の人への PR は大事である。活用いかんでは、地域の活性化と同時に史跡としての重要性を認識していただき、大勢の人に来てもらうにはどうしたらよいかである。

○委員 具体的な細かい意見の議論に入る前に、本町の活性化や観光という賑わいの創出をすることについてを本懇談会の基本認識として、24 年度の協議会に提言が報告されていくことが適切ではないかと考える。

○委員 府中本町駅南商店街の再開発計画はあるのか。

○委員 一体的に行うことは、30 年程前から話があるが今はない。

○委員 商店街としては、イトーヨーカドー付近の住宅地は、昔 30 年位前にデベロッパーや再開発的な話があり、第 1 回目の府中本町駅再開発ではないかと言われた。地域としては、人が集まり活性化ある府中本町駅、国司館のようなものを造ってほしい。昔から何代も住んでいる住民が大勢いるので、御殿地地区が賑やかになり活性化できるとよい。

○委員 大國魂神社と連携する様な計画で人が大勢集まり活性化をお願いしたい。

○委員 実際の整備方法は、市だけでは決められないと思うが確認したい。

○座長 用地買収の負担は、80%が国、10%が都と本市で、文化庁は商業施設は認めないとしており、地域の活性化に必要な商業施設に代わる集客の方策を考えないといけない。また、府中本町駅は、タクシーだけでバスの交通機関がなく、ちゅうバスでさえ駅に停車できないためバスターミナルを希望したいが不可能である。許された範囲内での提案例として、郷土の森との連携で府中本町駅と郷土の森間のバス便、観光協会と連携した府中郷土の特産物販売などは良いらしい。予算の問題もあり大きな物は不可能かもしれないが家康御殿の再建等を行い、その中に地域の特産物販売場所や郷土の森を結ぶバス発着場所等を整備する。府中本町駅を降りた人が史跡にすぐ行けるほか、バスで郷土の森や熊野神社古墳も巡ることができる方策を考える必要がある。

○委員 従来、文化庁の方針は、史跡の保存にウエイトを置いていたが、最近は保存だけでなく商業ベースはだめだが、活用にウエイトを置き始めている。資料にある委員意見も、保存を図りながら多くの集客をできるような方策を考えることについて共通している。

○事務局 前回会議で、全国の史跡整備の現状事例の紹介をした。これまで、文化庁の方針は、史跡は保存が前提であったが、府中本町の史跡については、駅前の一等地であり、これまでにない全国でも初めての史跡整備の事例として具体的に検討していこうとしている。

本場所は、国が8割、都が1割という補助により買収でき、この補助がなければ、市が単独で27億円を負担して取得することは困難であったと考える。文化庁も来年度の協議会に参加していただくので、地元市民の生の声を強く働きかけていきたい。イトーヨーカドーのようなスーパーは不可能であるが、商業施設が全くだめということではなく、例えば「御殿道の駅」のような物産館を整備し、地場産や府中名産品の販売、レストラン等のような物の整備は十分可能であると思う。

○委員 委員皆の思いは同じである。ただし、何かを造って地域の活性化の元になるか疑問であり、広い土地を徐々に質を高めていけばよく、それを利用した府中本町駅周辺や府中駅間との歴史的な有効利用が大事である。他市から来て魅力あるという以前に、住民自身ががりっぱなものであるという自覚が、必要と感じる。それには、身近な物として観光協会や市等でのPRによるなどの意識を高める必要がある。

○委員 意識を高める方法は具体的方策が必要である。認知度が高いのは、東京競馬場、サントリーで、大國魂神社やくらやみ祭は低い。最初から全国から集まってもらう場所にするのは難しいので、大國魂神社やくらやみ祭に集まる人を対象にして、実績を積んで広めていけばよく、どうしたら人を集められるかの具体的な方策となる。

○委員 賑わいや人が多く集まることが最終的なポイントであると理解するが、具体性の議論が必要である。

先般、委員が出した一つひとつの意見を、時間的都合もあるため、全部この席で議論の遡上に載せにくいと思う。

この資料の取り扱いとして、先般提出された資料に記載の意見内容については、この場の協議に出たものとして取り扱ってほしい。

○座長 そのとおりで、協議に出たものとして取り扱いたい。(一同了解)

○委員 府中の人、歴史に興味ない人にどう宣伝できるか。

○座長 商業施設は買い物で毎日でも来るが、史跡は、どんな所でも1度観ると何回も行くものではない。その場所へ来なければならないような物がないと集客

はできない。熊野神社もそうだが、毎日には行かない。観光的な物、保存していく上にはなんとかしていかなければならない。道の駅、買い物である商業施設を文化庁も認識して頂きたいと思う。

○委員 地上に残っている施設でさえも人が集まらないのに、地下に埋蔵しているものを掘り起こして見せる場所では更に人は集まらない。まずは建物を造り、公共施設は見せるだけで販売をしないので、業者委託して自由に売買が出来る場所にしないと活性化は出来ない。

○委員 委員意見の共通事項では、活用は、道の駅で地元野菜の販売、イベント会場、鷹狩の実演、大國魂神社祭礼との連帯、音楽・舞踊などの多目的イベント、市を開くなどがある。「市(いち)」は人を集めるのには魅力であるが、販売は物が魅力的でなければお客は来ない。めずらしい物や一流な物であれば人は集まる。一例では、靖国神社境内での定例的な骨董市などは人が集まっており、認知度がある販売なら集客できるが、人が集まる場所をどういう形で創りだしていくかという工夫が必要となる。運営主体についても、意見にあるように、民間、共同運営等があり単独で解決できるものではなく、全て一体になって一つの方向が見出されるのではないかと考える。

○委員 道の駅や骨董市等何を行うにしても駐車場がないと不便である。車時代なので、ちゅうバスも入れる様にし、大きな駐車場を確保することが大事である。

○座長 商業施設が全く不可能であるならば、歴史的価値からの保存であるならJRの協力が必要だが、線路の上に蓋をして府中本町駅と善明寺をして繋げることで相当広い面積となり、バスのターミナルでも商業施設でも可能となる。穴を掘らずに柱を立てて上を蓋し、レールをトンネルにすることでもしないと活性化できない。次の再開発は府中本町駅の一等地である。

徳川御殿、国衙館跡を建設し、そこに甲冑・刀剣の展示や物産販売、国衙の人形展示などの方策を採ればまだ良いが、ここにそうした物がありませんと言ってもどうしようもない。

○委員 市内には芸術文化関係のサークルが多くあり、学習センターや美術館等の活動団体の作品展示場所はあるが販売場所がないので、販売システムを創れば人も集まり支援にもなる。また、新しい物産の特産品の開発が必要である。江戸時代に幕府にも献上していた府中特産品の真桑瓜(まくわうり)は、現在はない。イベント時だけでなく、常時、人が集まるようなシステムにしていけないといけない。

○委員 今のアイデアはとても良く販売も良いが、国府の軸を市民全体に行き渡らせるようにするためにも、子供の遊びや体験、主婦や高齢者、勤労者等の様々なターゲット別に年間を通して天平時代の働き方等の講座を開催すれば、必ず人が来る。そのイベント広場で物販し、レストランで食事が出来、歴史を再現するテ

ーマパーク等にする。問題は運営であるが。

○委員 昔から景色が良い場所なので展望台のような物ができたらよいと思う。史跡は地下の掘削はできないのか。

○座長 14階マンション建築の際には、眺望に配慮しての設計を市で行政指導しており、公開空地の設置が決まっている。

○事務局 仮に北側にそうした要望をいただいた場合、具体的な施工方法は今後十分検討できると思う。高層タワーは難しいが、敷地内の北西側の府中本町駅改札口側はかなり遺跡が壊れていた部分でもあり、例えば、べた基礎の平屋の建物の屋上に展望場所を造り、富士山を鑑賞できるような物が欲しいという要望があれば、十分考えられると思う。

○委員 予算はあるのか。

○座長 予算の問題は別として、こういうものがほしい、こうしてほしいというものの材料を出して、次の協議会に託すことにしたい。

○委員 資料にある委員の意見では、史跡の保存については、家康御殿や国司館等の再建・保存、復元建築物の設置等、国史跡なので基準にあった保存を行う。活用については、国府公園や環境の公園化が共通理解となっている。人が集まる・賑わえる場所、ネーミング・運営主体の問題、景観・植栽・歩道・蓮池等を含めた公園の問題、公園を造るにしても国司エリア・御殿エリア・イベントエリア等に別ける。PRでは、解りやすい言葉遣い・ホームページ・ゆるキャラ・武蔵国府民塾、駐車場の要不要、市内他の遺跡との関係では、ちゅうバス巡回、歴史散策等がある。連携では、歴史めぐりで市内他の遺跡をバスで巡回、情緒があり楽しめる歩道、市内史跡を結ぶことを目安化して街路樹を統一、市内史跡のルート化、他の駐車場との共用駐車場、国分寺遺跡とのコラボレーション、ネット化、ガイドの養成等が出ている。

○委員 府中本町駅の乗客は2万人を超えるほど多いのに、ほとんどの方が駅から出ない。JRの協力が必要であるが、府中本町駅の階段を降りずに直結でホームからエレベーターやエスカレーターでも会場へすみやかに行けるようにする要望が必要である。また、競艇場や競馬場へ行く人を入れるとすごい人である。

○委員 府中駅と府中本町駅、その間にある多くの史跡、ケヤキ並木も含めて一般道路とは異なる歴史や風情が感じられる整備の仕方が本市にとっては重要なこととなる。府中本町駅と善明寺の間に蓋をかける位の思い切りと視点がないと本物にはなれない。街の雰囲気は永い間に変わるため、市庁舎の建替も含め本市における一つひとつの建物は、府中の街の歴史と伝統の意匠で建てて行くことが大事である。

○委員 市庁舎・駅周辺の再開発が必要である。

○座長 善明寺の国宝に匹敵する金仏様(かなぶつさま)と史跡の連動、高安寺の足利尊氏、弁経井戸等とも繋がる。

○委員 国衙跡等単独でバラバラでいたのでは観光資源としての価値は低い。蓋を架けるところまでは難しいとしても、それらの点を結ぶ歩道や道路を整備するという視線は現実には可能である。

○委員 史跡、神社等の遊歩道を整備し、ちゅうバスで巡回するものを造ることは、委員の共通項である。

○委員 歩いて観て廻ること必要。国府府中の街を一体化して、テーマパーク化できれば、短期間では難しいが将来的には望ましい。

○委員 バスで通過してしまうのではなく、歩いて廻ることで商店は潤う。

○委員 立派な建物ではなく、国衙跡の広場にテントでも、地域の商店が期間交代でみやげ物として出店することなども良い。

○座長 本町は、府中の中でも一番古い場所で、甲州街道は後から出来ている。これまでの議論を整理したい。

○事務局 今日のご意見をまとめると、大前提は、人が集まる本町の活性化による賑わいの創出、具体的な方策として、地域の商店が出店でき物販が出来るような施設の設置。

2番目としては、歴史を感じる事ができる空間で、歴史のテーマパーク等、長い府中の歴史の風情を感じられる空間・シンボリック的なものを造る。

3番目としては、便益施設として、ちゅうバスが駐車できる場所、お客さんの駐車場、駐車場を指定地内に造る意見と近隣にまとめる等の意見があった。集客施設と観光的なちゅうバスが駐車できる場所、駐車場。

4番目としては、全体の活用として、JR府中本町駅との連携も含めて近隣の資源活用、歴史の道の整備、バスだけでなく歩き見えるグリーンの道の整備、府中本町駅の再開発を含めた大きなエリアとして整備していくものとする。

この内容に基づいた案として事務局でまとめ、資料をお送りしたい。

今後の流れは、本懇談会は3月までに提言をまとめ、来年度は文化庁等の専門家を交えた整備の基本計画の策定を予定する。その後は、一般的な整備の流れからすると国の補助を受けながらということになるが、基本設計、実施設計を経て整備する形として数年かかってくると考える。

○座長 それでは、事務局でまとめた懇談会意見を次の協議会に提案し、本懇談会の意見を反映したい。本日はたいへんありがとうございました。これにて懇談会を終了します。皆様たいへんお疲れ様でした。

以上